

協賛企業各位

謹啓 時下、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

此の度は、第 57 回日本神経学会学術大会に多大のご支援をいただきまして、誠に有難うございました。幸い連日好天にも恵まれ、お蔭さまで 7,463 名という多くの皆様にご参加いただきまして、神戸での初めての学術大会を無事終了することができました。これもひとえに皆様のご協力、ご支援の賜物と、心より御礼申し上げます。

徳島大学神経内科は 2000 年 11 月に私が初代教授として赴任した後 2003 年に正式に神経内科の講座として開設されました。歴史が浅くスタッフの数も少ない主催校であったため、至らぬ点も多々あったこととお詫び申し上げます。

当教室では、開設以来、一貫して「なおる神経内科」を目指しておりましたが、それを今回のメインテーマに、また教育セッションを増やして「わかる神経内科」をサブテーマにさせていただきました。神戸大会では、このテーマに沿ってプログラムを構成するとともに来年に京都で開催される世界神経学会議（WCN2017）に向けて英語セッションの充実もはかりました。その結果、海外参加者は 231 人となり、国際化をさらに進ませることが出来たのではないかと考えております。

企業の皆様にも 700 名を超える多くのご参加をいただきました。ご参加いただきました皆様には、昨年の新潟大会と同様に全てのプログラムにもご参加いただけるように致しましたところ、シンポジウムにおいても積極的な質問や討論への参加も見受けられ、より開かれた学術大会になったのではないかと思います。ポスター会場に隣接したスペースには多くの展示をしていただき、ランチョンセミナー、イブニングセミナー、プレミアムイブニングセミナー、meet the expert にも多数共催していただきました。さらに、抄録集やマイスケジュールにも、広告も掲載していただきました。神戸大会の円滑な運営のために賜りました多大のご支援に対し、重ねて心より御礼を申し上げます。

徳島大学神経内科の医局員、および学術大会運営事務局一同、神戸にありながら徳島も感じていただくおもてなしを心掛けまして、精一杯大会運営にあたらせていただきました。会期中は不行届きの点も多々あったかと存じますが、何卒、ご寛容下さいますようお願い申し上げます。本来ならば、拝眉のうえ御礼を申し上げなければなりません、略儀ながら御礼のご挨拶とさせていただきます。

末筆となりますが、貴社の皆様の益々のご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げます。

謹白



平成 28 年 5 月 31 日

第 57 回日本神経学会学術大会 大会長
徳島大学臨床神経科学（神経内科） 梶 龍児

【大会長校事務局】

徳島大学大学院医歯薬学研究部医科学部門内科系臨床神経科学分野

【学会事務局】

日本神経学会事務局

【運営事務局】

第 57 回日本神経学会学術大会運営事務局（株式会社コングレ）